

令和7年3月5日

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	千代田区立番町幼稚園
所在地	千代田区六番町8

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

「色」の探求

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

子どもたちが製作活動や描画活動が好きで、日々遊んでいる姿が多くみられた。そのなかで、様々な色に囲まれて生活しているが、よくよく見ると、クレヨンセットの中にある色だけではないことに気付いてほしい、そして何か表現したくなった時に、自分の思う色で存分に表現できると、より子どもたちの世界が広がるのではないかと考えたため、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

7月2回（5歳児）

9月2回（4歳児）

上記以外に、日常の中での「好きな遊び」として随時継続。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

＜準備した素材や道具＞

ライトテーブル、マイクロスコープ、PC、プロジェクター、空き瓶、バケツ、

描くもの（固形絵具、太さの違う筆5種、水性ペン、クレヨン、色鉛筆、鉛筆、キットパス、ポスカ、クーピー、ボールペン等）

紙素材（画用紙（白、黒）、和（白、黒）、半紙、障子紙、薄紙、不織布、セロファン、プラシート等）

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

自分の本当に好きな色はどんな色なのかを様々な画材(和紙、薄紙、画用紙、様々な太さの絵筆、クレヨン、色鉛筆、ペン)で繰り返し試し、探求した。その中で、ライトテーブルを活用し、光が当たった時とそうでない時の違いに気付いたり、マイクロスコープを使って筆跡の美しさに気づいたりすることで、さらに探求を深めていった。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

絵の具で混色し、色を作る実験的活動中に、A 児が綺麗な緑色を作った。

隣にいた B 児がそれを見て

B「ねえ、その色どうやって作ったの？」

A「黄色と青を、こうやって混ぜるの。」

B「できた！見てみて」

A「・・・あれ？緑だけど、ちょっと違う。」

B「おんなじにやったのに・・・。」

「もう一度やってみよう」

A「あれ？」

B「全部、全部違う緑になっちゃった！」

A「緑って、たくさんあるんだね。」

<活動の様子>

活動の様子が分かる写真を 2 枚以上貼付してください。

(HP などで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

（振り返りによって得た保育者の気づき）

子どもたちと探求していく中で、子ども達が思っている色（例えば緑）は、自分の想像する色だけではなく、様々な幅があることに気付いたり、友達と同じように作っても、細かい配合によって変化することに気付いた時の子どもたちの驚きと、それに伴って知的好奇心を刺激され、もっとやってみようという意欲に繋がることが分かった。

そして、その気づきを得た子どもは、『番町ラボ』内の活動だけでなく、自分たちの暮らしの中で色の違いによく気付くようになったと実感している。

環境としては、発達段階において、道具や素材を増減したことは良かった。5 歳児はこれまでの経験から、使い慣れているものも多いので、さらにバリエーションを持たせたり、子どもが使ったことのない道具や素材も意図的に用意した。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「光」の探求

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

番町幼稚園の保育室は、どこも朝明るい光が差し込む環境である。その環境を最大限に生かしたいと考え、自然の「光」や、人工的な「光」の存在に気づき、その美しさに気付いたり、光について考えたりする探究活動をしたいと考えたため、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

1 2月3回(4歳児)

2月2回(3歳児)

上記以外に、日常の中での「好きな遊び」として随時継続。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<準備した素材や道具>

ライトテーブル、マイクロスコープ、PC、プロジェクタ、

自然物(遠足で自分で拾ったどんぐり、マツボックリ、フウノミ、マツの葉等、園内にある葉5, 6種)

描くもの(水性ペン、クレヨン、色鉛筆、鉛筆、キットパス、ポスカ、クーピー等)

紙素材(画用紙(白、黒)、和(白、黒)、半紙、障子紙、薄紙、不織布等)

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

マイクロスコープを使って様々なモノの微細な部分を見てその面白さや美しさを感じ、興味関心を深め、書いて表現してみようとする。

自然物(砂や土粘土など)と人工物(ネジやナットなど)を精選し、自然の美しさと人工物を融合することで新たな発見や創造を生み出すことの楽しさを感じ、探究する。(こちらは子どもたちの興味が自然物を深めるところまでだったので、人工物についての実践は、次年度に持ち越した。)

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

アクリル積み木とプロジェクターの光で、壁やスクリーンに映るカラフルな像を楽しんでいた C 児。

C「こっちはピンクになる。透明のは、どうなるんだろう？」

「あれ！？透明は、ちょっと周りが黒くなるよ！なんで？」

様々な色を持ってきてどんどん試していく C 児。

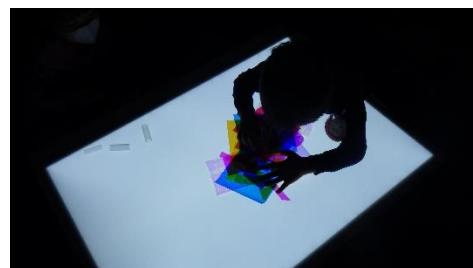
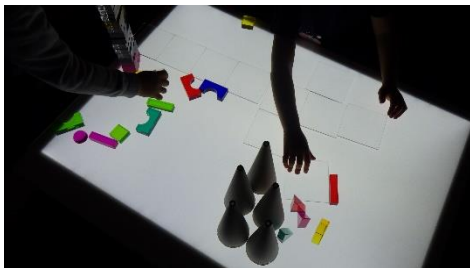
C「あ！わかった！“映る”んだ！透明は、“映る”！！」

色の違いから、見え方の違いに気付いた C 児の発見から、周りにいたほかの子どもも、様々なモノを持ち込んで“映る”ことへの探究に向かっていった。

<活動の様子>

活動の様子が分かる写真を 2 枚以上貼付してください。

(HP などで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然物と人工物」の探求

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

今年度子どもたちは登園時に自然物を拾ってきたり、園庭の植物を遊びに取り入れたりに関心が高かった。その姿から、もっと自然物を活用したり、さらに自然の面白さや不思議さに気付いて欲しいと考えた。また、その感じたことを表現できると、より子どもたちの世界が広がるのではないかと考えたため、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

1 2 月 3 回 (3 歳児)

上記以外に、日常の中での「好きな遊び」として随時継続。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<準備した素材や道具>

ライトテーブル、マイクロスコープ、PC、プロジェクター、空き瓶、バケツ、
描くもの (固形絵具、太さの違う筆 5 種、水性ペン、クレヨン、色鉛筆、鉛筆、キットパス、ポスカ、クーピー、ボールペン等)
紙素材 (画用紙 (白、黒)、和 (白、黒)、半紙、障子紙、薄紙、不織布、セロファン、プラシート等)

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

自分の本当に好きな色はどんな色なのかを様々な画材 (和紙、薄紙、画用紙、様々な太さの絵筆、クレヨン、色鉛筆、ペン) で繰り返し試し、探求した。その中で、ライトテーブルを活用し、光が当たった時とそうでない時の違いに気付いたり、マイクロスコープを使って筆跡の美しさに気づいたりすることで、さらに探求を深めていった。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

遠足で拾ってきたドングリをマイクロスコープを使ってスクリーンに映してみた。

D「わぁ！縦模様がある！」

E「てんてん(模様)もあるよ！」

F「つつつのかんじ。」

D「あれ、暗いところもある…(割れ目)」

F「暗闇だ…」

E「ちょっと怖い感じがする…」

拡大して見てみると今まで気づかなかったことが見えてきた子どもたち。

実際に見える発見と、その中に入り込むような感覚と、その世界の間を行ったり来たりするような感覚を味わっていた様子が見られた。

<活動の様子>

活動の様子が分かる写真を2枚以上貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

（振り返りによって得た保育者の気づき）

遠足で自分で拾った、思い入れのある自然物から活動を始めたことはとても良かった。

あらためてじっくりと見ることで新たな気づきを得たり、マイクロスコープとプロジェクターを使って細部を拡大して見ることで、ミクロの世界に入り込んで想像を膨らませたりすることで、子どもたちの「もっと見てみたい」「もっと知りたい」という知的好奇心の芽が育っていくのを感じた。

また、いつも何気なくある葉っぱに「道がある！（葉脈）」と気付いて、これはなんだろうか、と考え、想像を膨らませ、観察したり、自分なりの仮説を立てて見て行ったりと、自然の不思議さや美しさに気づき、探究を楽しむ姿が見られた。3 歳児と行った活動だが、教師が先回りして知識を与える、教えるのではなく、子どもたちの興味に沿って共に探究していくという活動スタイルは、子どもたちの自ら感じ、考えるという育ちに繋がると感じた。

以上